

中国における情報規制への態度とメディア利用
—2009年上海のアニメーションフェア参加者の調査から
Media Use and Attitudes Toward the information Regulation Policy in
China: A Survey Report on Shanghai Animation Fair in 2009

石井健一 (筑波大学システム情報工学研究科)

Kenichi Ishii

Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba

要旨

上海で2009年7月にアニメーション関係のフェア(2009ChinaJoy)の参加者を調査した結果を報告する。この研究では、中国のアニメーションファンの価値観や文化政策への態度を分析することを主目的としている。その結果、政府の情報規制への態度は排外意識、集団主義や物質主義などの価値観と関係していたが、特に排外意識との関係が強かった。また、アニメーションの視聴者とインターネットの利用者で規制に対する否定的な傾向がみられた。中央電視台のチャンネルの好みは規制肯定と正の相関関係があった。また、中国政府のインターネット規制や文化政策に対する賛否において、好みのアニメーションのタイプによって統計的な有意差がみられ、日本アニメのファンと比べるとアメリカアニメのファンは情報規制に対して肯定的な傾向がみられた。

This presentation will report on a questionnaire survey which was conducted in "2009-ChinaJoy" Shanghai in 2009, focusing on attitudes toward information regulation policy in China and its related variables. It was found that the attitude was significantly correlated with many variables such as demographic factors, values, and media use.

キーワード: 中国、アニメーション視聴、文化政策、インターネット規制、価値観

*本研究は、科学研究費・基盤研究(B) (19402034) 『中国における文化政策とポピュラー文化の変容』で実施されたものである。

問題の背景

最近の中国政府は、メディアにかかわる色々な領域で規制を強めつつあるようにみえる。2009年には国内の全てのパソコンに検閲ソフトをインストールする制度を始めると発表した（その後導入は延期）。Googleの中国からの撤退で報道されたように中国では検索エンジンも規制しているほか、ネットコンテンツの等級管理を検討中であり、さらにインターネットに実名制を導入しようという動きもある（2009年12月7日、人民網）。また、インターネットだけでなく、中国政府はアニメーション産業の育成のため2006年からアニメーションの国産化政策を導入し、外国アニメの新規放送を事実上禁止しており、外国コンテンツに対する規制を強めている。

こうした情報の規制政策は共産党が党のイデオロギー浸透を強化するために上から導入したものであり、市民の関心はもともと低かったと言える。たとえば、張(2008)によると共産党が提唱する「精神文明の建設」は新聞等のメディアではよく取り上げられる「議題」だったが、市民はほとんど関心をもっていなかった。しかし、こうした情報規制がインターネットやアニメーションの実質的な規制に及ぶにつれて世論の関心も高まりつつある。しかし、情報規制に対する一般人の反応を実証的に分析した研究はほとんど見られない。本報告は、2008年に広州で実施したアニメーション利用者調査に続き（『情報通信学会誌』89号で報告）、2009年に上海で実施したアニメーションに関するアンケート調査に基づいて中国のこうした政策への一般人の反応を探ることを目的とするものである。

メディアへの規制に対する態度は、改革開放後の中国人の価値観の変化から影響を受けていると予想される。また、メディアの利用頻度や年齢や学歴といった個人属性によっても規制に対する態度は異なるものと予想される。そこで、本報告では、以下の問いに答えることを目指したい。(1)このような情報規制に対して人々はどのような反応をしているのか、(2)規制への賛否は、どのような要因と関係があるのか

方法

2009年7月23-26日に第七回中国国際デジタル・インタラクティブ・エンターテインメントフェア（ChinaJoy）の参加者400人を調査した。ChinaJoyの参加者を調査した理由は、アニメーションやゲームなど先進的な情報メディアのヘビーユーザーが多く参加するであろうと考えられたからである。このフェアは、中国政府および上海市の各部局が後援しており、「電子娯楽作品を促進するとともに、海賊版に打撃を与えて市場に規律を与え、青少年の健康な電子娯楽作品の利用を進める」ことなどを目的としている（ChinaJoyのホームページから）。ただし、フェアではアニメーションやゲームに関する催しが多数開催されたので、参加者の大部分はアニメーションやゲームに関心の高い青少年であったと思われる。

調査方法は、年齢と性別の割り当て抽出法によって対象者を選び、面接して調査をした。調査対象者の年齢は15-39歳とし、10歳刻みの年齢層の回答者が同数になるようにし、かつ各年齢層での男女も同数にした。同時に上海市内の繁華街（人民広場）で、年齢・性別を同様に割り当てて調査を実施した。アンケート調査の主要な項目は以下のとおりである。

- 好きなアニメーション

- アニメーション、マンガ、ゲーム、テレビ、インターネットの利用頻度
- 外国番組と中央テレビ台(CCTV)の好み
- 情報の規制に関する賛否 「我々はさらに外国番組の規制を強化しなければいけない」「中国は中国人の精神文明を強調した番組を放送すべきである」「現在のインターネットは開放されすぎているので、規制を強化すべきだ」の三項目でリッカート尺度(加算尺度)を構成したところ、クロンバッハの α 係数=0.676 が得られたので、以下ではこの三問を合算して「規制態度得点」とする。
- 価値観 集団主義を「良いものは皆で分け合うべきだ」などの四問でクロンバッハの α 係数は 0.801。物質主義は「金があれば何でもできる」など五問でクロンバッハの α 係数は 0.672 であった。また、排外意識は「私は中国製品だけがほしい」「外国製品を買うのは中国人がすべきことではない」の二問でクロンバッハの α 係数は 0.839 であった。

フェア参加者調査の回答者の平均年齢は 24.1 歳、一般調査では 24.7 歳であった。4 年制大学卒以上の回答者の比率は、フェア調査では 54%、一般調査では 45%であった。上海市の住民の比率は、フェア調査では 74%、一般調査では 94%であった。

結果

調査の単純集計の報告 フェア参加者調査と一般調査でのメディア利用時間は、表 1 のとおりである。予想どおりフェア参加者の方がアニメーション、ゲーム、インターネットの利用時間は長かった。テレビ視聴時間は、逆に一般視聴者の方が長かった。

また、好きなアニメーションを国別に分類した結果は表 2 のとおりである。アニメーション国産化推進の一環としてフェアが政府の支援で開催されているにもかかわらず、フェア参加者には日本アニメのファンが多いことがわかる。規制に係る次のような質問をした結果が表 3 である(カッコ内はフェア参加者と一般調査者のそれぞれの賛成率)。

- (1)一部の日本アニメーションは不健康である (50.3/48.5%)
- (2)我々はさらに外国番組の規制を強化しなければいけない (30.0/24.5%)
- (3)中国は中国人の精神文明を強調した番組を放送すべきである (49.5/56.8%)
- (4)現在のインターネットは開放されすぎているので、規制を強化すべきだ (35.8/39.3%)

日本のアニメーションは「不健康」とする者がほぼ半数にのぼり、この傾向はフェア参加者でも同様だった。外国番組の規制やインターネットの規制については賛成よりは反対が多かったが、「中国人の精神文明の強調」については賛成の方が多かった。

情報規制への態度に関連する変数 それでは規制に関する意見は、どのような要因の影響を受けているのであろうか。この点を分析するために、規制態度得点を従属変数として回帰分析を行った結果が表 4 である。

表 4 では多くの変数が統計的に有意になっているが、属性変数との関係でいうと男性、若者、高学歴者で規制への反対意見が強いことがわかる。

標準化回帰係数の値が 0.53 と最も大きいのが「排外意識」である。規制への態度が暴力やポルノのような青少年に悪影響を与える可能性のある不健康な情報内容への懸念だけでなく、中国人としてのナショナリズム意識にも関係していることが、この結果から示唆さ

れる。また、集団主義はプラス、物質主義はマイナスで統計的に有意な値となっている。これらの結果から、伝統的な意識を強い人ほど情報の規制に賛成しているという関係があることがわかる。

また、インターネットを多く使う者、アニメーションを多くみている者の間に規制に反対するものが多いことがわかる。この点は、中国政府の規制が特にこれらのメディアに向けられていることと関係していると思われる。また、中央政府のテレビチャンネル(中央電視台)を好む人ほど規制に賛成するという傾向もみられた。

最後にアニメーションの好みと情報規制へ賛否の関係でみられた興味深い結果について報告しておく。表 5 は、好きなアニメーションの国別に規制態度得点の平均点を算出したものである。意外なことに中国のアニメーションよりもアメリカのアニメーションを好む者の間で規制への賛成が強いことがわかった ($F=5.15$, $DF=2$, $p<0.01$)。アメリカのアニメーションも日本のアニメーションと同様に、中国では外国番組として規制対象となっているのであるが、規制への態度という点では日本アニメーションファンとアメリカのアニメーションファンの意見は全く異なるのである。これは、アメリカのアニメーションがほとんど子供向けのディズニーアニメーションであり、日本のアニメと異なり青少年向けのコンテンツが少ないことが関係していると思われる。つまり、同じように「好きなアニメーション」と答えているが、「好き」のもつ意味がアメリカアニメーションと日本アニメーションでは微妙に異なっているためと考えられる。

表1 メディア利用頻度

	一般調査	フェア参加者	F 値	
アニメーション視聴頻度(月あたり回数)	9.94	13.14	19.2	***
マンガ閲読頻度(月あたり回数)	3.52	7.46	45.0	***
ゲーム利用頻度(月あたり回数)	13.11	19.73	61.2	***
テレビ視聴時間(一日の時間)	2.20	1.63	27.4	***
インターネット利用時間(一日の時間)	3.36	4.33	58.1	***

表2 好きなアニメーション(%)

	一般調査	フェア参加者
日本アニメーション	59.2	78.8
アメリカのアニメーション	15.1	10.1
中国のアニメーション	25.7	11.1
N	397	396

表3 規制に関する質問の単純集計結果(%)

		非常に当 てはま る	当て はまる	どちら とも言 えない	当て はまら ない	非常 に当 てはま らない	合 計
外国のテレビ番組が好きである	フェア参加者	19.5	53.0	19.3	7.8	0.5	100
	一般調査	18.5	41.5	20.8	17.8	1.5	100
一番よくみるチャンネルは中央 電視台(CCTV)である	フェア参加者	2.0	14.0	25.3	32.8	26.0	100
	一般調査	6.0	16.8	19.0	44.0	14.3	100
		非常 に賛 成	賛 成	どちら とも言 えない	反対	非常 に反 対	合 計
一部の日本アニメーションは 不健康である	フェア参加者	13.8	36.5	34.3	13.0	2.5	100
	一般調査	8.8	39.8	36.8	13.8	1.0	100
我々はさらに外国番組の規制 を強化しなければいけない	フェア参加者	7.5	22.5	28.3	33.8	8.0	100
	一般調査	1.5	23.0	20.5	45.8	9.3	100
中国は中国人の精神文明を 強調した番組を放送すべきで ある	フェア参加者	17.0	32.5	33.5	13.3	3.8	100
	一般調査	11.8	45.0	26.3	13.0	4.0	100
現在のインターネットは開放さ れすぎているので、規制を強 化すべきだ	フェア参加者	15.8	20.0	21.0	27.0	16.3	100
	一般調査	6.5	32.8	18.3	26.0	16.5	100

表 4 情報規制に対する態度を従属変数とする回帰分析結果

	標準化回帰係数	t 値	
性別(M=1,F=2)	0.09	2.78	**
年齢	0.07	2.35	*
学歴	-0.06	-2.01	*
集団主義	0.13	4.49	***
物質主義	-0.08	-2.80	**
排外意識	0.53	16.99	***
アニメーション視聴	-0.07	-2.13	*
マンガ視聴	-0.02	-0.74	
ゲーム利用	0.06	1.75	
テレビ視聴	-0.03	-0.90	
インターネット利用	-0.14	-4.26	***
外国番組の好み	0.06	1.87	
中央テレビ台の視聴	0.06	1.98	*
フェア参加者(ダミー)	-0.07	-2.00	*

表 5 好きなアニメーションの国別にみた規制態度得点の平均

好きなアニメ	平均	N
日本	8.9	547
アメリカ	9.9	100
中国	9.1	146

F=5.16, DF=2, p<0.01

参考文献

石井健一(2009) アニメの視聴行動と内容の日中比較, 21 世紀東アジア社会学, 2 号, 30-42

石井健一(2009) 中国におけるアニメ国産化政策と日本アニメの利用実態—「ソフトパワー」論の一考察—, 情報通信学会誌, 89 号, 17-28

張国良(2008) 上海市民と情報化、『グローバル化における中国メディアと産業』(明石書店) 所収